

令和5年度 日本股関節研究振興財団 国内研修成果報告書

東京大学整形外科

石倉 久年

船橋整形外科病院

佐藤 貴充

佐賀大学医学部附属病院

初日は佐賀大学で、朝のカンファレンス、午前中の馬渡先生の外来、午後はTHAを見学させていただきました。馬渡先生の外来は、4-5 個のブースを馬渡先生自身が移動して患者さんにやさしく直接声をかけている姿が印象的でした。午後の後方アプローチ THA

では、河野先生の手術を見学させていただきました。梨状筋を温存したうえで、後方関節包の切開をL字状に最低限におさえ、インプラント設置後も後方関節包および短外旋筋群をすごく丁寧に修復されていました。それでいて手術時間は45分程度であり、長年をかけて洗練された手技を目の当たりにす

ることができました。外回りの看護師さん含め、スタッフの動きに全く無駄がない点が印象的でした。

2 日目は馬渡教授執刀の寛骨臼移動術を見学させていただきました。「手術をする以上、骨頭をしっかり被覆する」というこだわりが詰まった手術でした。骨切り位置、どれくらい寛骨臼を移動させるか、移動させた後の被覆具合、すべてを直接見て、実際に触れて確認する手術は非常に勉強になりました。

佐賀大学では同時期に岩手医科大学から大竹先生、帝京大学から望月先生が研修されており、他大学の先生方を積極的に受け入れている懐の深さに感激をいたしました。



佐賀大学整形外科医局にて。
左から佐藤、馬渡教授、石倉。

川崎医科大学付属病院

川崎医科大学では、ALS-THA を 2 件、実際に手洗いをして見学させていただきました。古市先生の ALS-THA を実際に見学させていただいたあと、河本先生によるレクチャーもいただき、手術におけるコツやピットフォールについて、細かい部分まで教えていただき

ました。そのレクチャー後の 2 件目の手術は、河本先生、石倉、佐藤の 3 人が手洗いで、臨場感ある手術を間近で見させていただき、大変勉強になりました。また、2024 年の日股会を主催される三谷教授とも実際にお話しさせていただくことができました。



**川崎医科大学手術室にて。
左から佐藤、三谷教授、石倉、河本先生。**

京セラ野洲工場

岡山から滋賀県の野洲に移動し、京セラ野洲工場を訪問させていただきました。

まず最初に、九州大学応用力学研究所の東藤貢先生に、有限要素法の基礎から実践までのレクチャーをしていただきました。その後、工場見学をさせていただきました。人工関節のカップ、ステム、摺動面が作られる工程を見学させていただきました。広大な敷地に様々な器械があり、それぞれの過程で出てくる様々な問題に対して、専門家の方々が試行錯誤しながら少しずつ改善してきた様子を伺うことができました。特に、洗浄や滅菌、サイズのチェックなどの品質管理がかなり厳

重にされている点が驚きでした。日々の手術で使用するインプラントが非常に多くの人の手によって作られていることを実感し、今後も当たり前に行われる手術ができる環境に感謝をしながら診療をしなければと強く感じました。

大阪医科薬科大学

最終日は高槻に移動し、大阪医科薬科大学を見学させていただきました。高槻駅からほど近い便利な場所にあり、100 周年記念事業の一環として、新病棟の建て替えが進んでいました。手術では、原臼位設置にこだわった塊状骨移植＋オールセメント THA を 2 件見学させていただきました。難しい手技にも関わ

らず、飯田寛先生から長年かけて引き継がれ、洗練された VSOP (Very Special One Pattern) の手術は非常に勉強になりました。手術のみならず、岡本先生、若間先生、松山先生をはじめとする股関節の先生方の雰囲気、手術室の雰囲気が素晴らしく、先輩後輩関わらず様々な意見を言い合える、風通しの良い環境が作られていることを強く感じました。

さいごに

今回の研修では、国内のトップレベルの施設の先生方から直接、手術を含めた専門的知識を習得することができました。研修の助成を頂きました股関節研究振興財団、また、お忙しいところお時間を割いていただいた各施設の先生方に、厚く御礼申し上げます。今回の研修を経て得られた知識のみならず、先生方との会話の中で得られた刺激、先生方とのつながりは、我々にとってもかけがえのない財産だと思っております。今回の経験を生かして今後とも日本の股関節医療に貢献できるように、研鑽を積んでまいりたい所存です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。